

高富城 案内板を設置しました

上野町の高台にあってあった「高富城」と城主片岡氏の歴史を伝えようと、案内板を跡地に設置し、令和7年3月20日にお披露目会を行いました。

石薬師高校美術部の部員の協力で、城門や落城と共に悲壮な戦死を遂げた2代目城主片岡将監則高(カタオカショウゲンノリタカ)を、子孫片岡氏の写真を参考に肖像画を描いていただきました。又、城の由来も記録しています。

城は織田信長が伊勢に侵攻した際、滝川一益の軍勢に属した片岡則宗が築いた。2代目則高の1584年(天正12年)、羽柴秀吉と織田信雄・徳川家康連合軍が戦った「小牧・長久手の戦い」の一戦で、秀吉方の蒲生氏郷軍が鈴鹿一帯に侵攻、則高は和睦を願ったが、村を焼き払いながら進んで来た蒲生軍との戦いに出て戦死したと伝わる。

当日は、片岡家ご子孫の方々、美術部員、上野町自治会、土地の提供者、歴史文化部の面々など多くの皆さんにお参加いただきました。ぜひ石薬師の皆さん方もご覧頂きたいと思います。

ご存じでしょうか、この地方では子供が泣き止まない時に、「がもじが来るぞ・・・！」と言って、静かにさせたと言い伝えられています。

高富城の事は、歴史文化部発行の石薬師地区の歴史再発掘-Vにも詳しく紹介されています。



石薬師高校美術部関係者の皆さん



設置された看板



石薬師地区の歴史再発掘-V



令和6年1月
石薬師地区町会いまちづくり協議会
歴史文化部発行

歴史文化部発行



説明する歴史文化部 武藤氏と
看板片岡将監則高モデルの片岡氏



片岡家子孫一族・関係者の皆さん



石明協関係者・歴史文化部関係者の皆さん